

第3回東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の技術的知見に関する
意見聴取会

議事要旨

1. 日時 平成23年11月25日(金) 10:00~12:30
2. 場所 経済産業省別館10階 1024共用会議室
3. 議題
 - (1) 冷却機能喪失に係る検討について
 - (2) その他
4. 出席者 岡本教授、勝田准教授、田中教授、奈良林教授、二ノ方教授、
山口教授、渡邊グループリーダー

以上7名

5. 議事要旨

①高圧での冷却

●1号機について

- ・ 津波が来るまでは特に問題なく対応していたと思う。ただ、大きな津波が来るということが、運転員が気づかなかつたわけで津波を早く検知する必要がある。
 - ・ 参考資料4の図3について、水温が上昇しているけど沸騰してないとのことだが、相当な温度差のため、蒸気が発生したのではないかと考えている。図2温度記録で津波到達時に100℃に到達していることがわかっている。ただし、参考資料3で自動起動した際に蒸気発生音を確認しているとのことであり蒸気は発生していたものと考えられる。
 - ・ 18:18で作動したが、なぜ10分も立たずに締めてしまった理由は何か。蒸気が弱かったので止めたという説がある。炉心で水素が発生していた可能性があり、10分で止まったのは伝熱管に水素が溜まったからではないかと考えている。この点は事故分析において大切な点である。
- 図3については、東電からはイメージと聞いている。IC(非常用復水器)の作動状況について、保安院としても確認する必要があると考えている。
- ・ ICの設計思想について、そもそもICは圧力制御が目的であり、なぜ55℃/hという制限を設けているかわからない。設計思想としてどのような場面でICを使用すると想定していたのか。
- 設置許可申請書では、水の補給なしで8時間の熱量をとれるだけの保有水を持たせるものとしている。除熱速度としては蒸気流量で規定されており、55℃/hの制限とは関連していない(蒸気流量の設定の考え方については整理する)。